

新潟市公民館運営審議会

第1期 第3回

令和7年11月27日（木）午前10時～
クロスパルにいがた 301講座室

第1期 第3回新潟市公民館運営審議会 次第

1. 開会
2. 中央公民館長あいさつ
3. 議長あいさつ
4. 議題、報告
 - (1) 新潟市公民館の地域連携事業について
 - ・各区における地域連携事業の取り組みについて
 - (2) 第4回運営審議会について
 - (3) その他
5. 閉会

公民館とは…

公民館は、地域住民のために社会教育を推進する拠点施設として中心的な役割を果たしています。現在、アジア地域を中心に展開されているコミュニティ学習センター（Community Learning Centre：CLC）のモデルとして世界の注目を集めています。

目次	
2-3	公民館とは
4-5	公民館の位置づけ
6-7	歴史
8-9	機能
10-11	変化する社会と公民館の役割
12-25	公民館の活動と活動事例 12-13 公民館の活動 14-15 公民館の活動事例
26-27	データでみる公民館
28-29	1946(昭和21)年：公民館の創設と普及
30-31	年表
32	期待される公民館像
33-35	関連資料

公民館は、住民同士が「つどい」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献しています。

【出典】
文部科学省
「公民館（日本語版）」
パンフレットについて
一部抜粋
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_1/08052911/004/1292570.htm

● **教育基本法（平成18年法律第120号）**

（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）

第十三条 学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

● **社会教育法（昭和24年法律第207号）**

第五章 公民館

（目的）

第二十条 公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

公民館の設置及び運営に関する基準
(平成15年6月6日 文部科学省告示第112号)

(学校、家庭及び地域社会との連携等)

第6条 公民館は、事業を実施するに当たっては、関係機関及び関係団体との緊密な連絡、協力等の方法により、**学校、家庭及び地域社会との連携の推進**に努めるものとする

2 公民館は、その対象区域内に公民館に類似する施設がある場合には、必要な協力及び支援に努めるものとする

3 公民館は、その実施する事業への**青少年、高齢者、障害者、乳幼児の保護者等の参加を促進**するよう努めるものとする。

4 公民館は、その実施する事業において、**地域住民等の学習の成果並びに知識及び技能を生かす**ことができるよう努めるものとする。



将来にわたって心豊かに暮らせるまちを築くためには、これらの強みを最大限に活かしながら、人口減少時代にあっても国内外から選ばれる「**活力あふれるまちづくり**」、新潟市ならではの豊かさを将来世代に引き継いでいく「**持続可能なまちづくり**」を、**市民の皆さまと共に**進めていくことが重要です。

このような考えのもと、2030年に新潟市が目指す都市の姿や、その実現に向けた政策・施策の方向性を市民の皆さまと共有し、**互いに連携・協働しながら**取り組んでいけるよう、「新潟市総合計画2030」を策定しました。

【出典】はじめに 新潟市長中原八一

2 まちづくりの理念

みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する、
『活力あふれるまちづくり』、『持続可能なまちづくり』
を進めます

(前略)

人口減少時代において、『活力あふれるまちづくり』と『持続可能なまちづくり』を重ね合わせて推進するためには、市民の新潟への誇りと愛着を育むとともに、市民や民間事業者を含め、多様な主体とのパートナーシップのもと、新潟市の強みを最大限に活かしながら、総力を挙げて取り組む必要があります。このまちづくりの理念のもと、将来にわたって新潟市ならではの「心豊かな暮らし」ができるまちを実現し、将来世代へ引き継いでいきます。

令和6年度
「新潟市総合計画2030」
成果指標に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和7年3月
新潟市政策企画部政策調整課

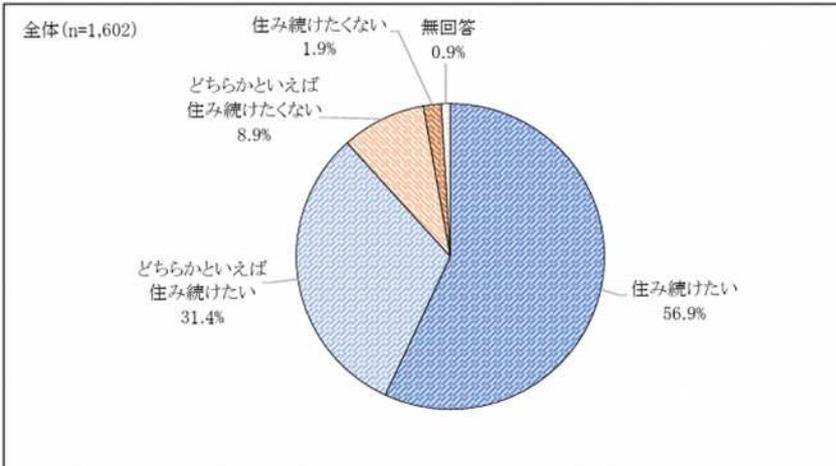
- (1) 対象者 : 市内に居住する満18歳以上の男女計4,000名
- (2) 調査方法 : 配布は郵送方式、回答は郵送方式及びWEB方式
- (3) 調査期間 : 令和7年1月8日～1月29日
- (4) 配付数・回収数・回収率

配布数	回収数	回収率
4,000	1,602	40.1%

1. 新潟市での暮らしについて

(1) 新潟市に住み続けたいか

1-1 あなたは新潟市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)



【全体結果】

新潟市での暮らしについて、「住み続けたい」が56.9%、「どちらかといえば住み続けたい」が31.4%、「どちらかといえば住み続けたくない」が8.9%、「住み続けたくない」が1.9%となった。

「あなたは新潟市に住み続けたいと思いますか。」の質問に、

- ・住み続けたい 56.9%
- ・どちらかといえば住み続けたい 31.4%

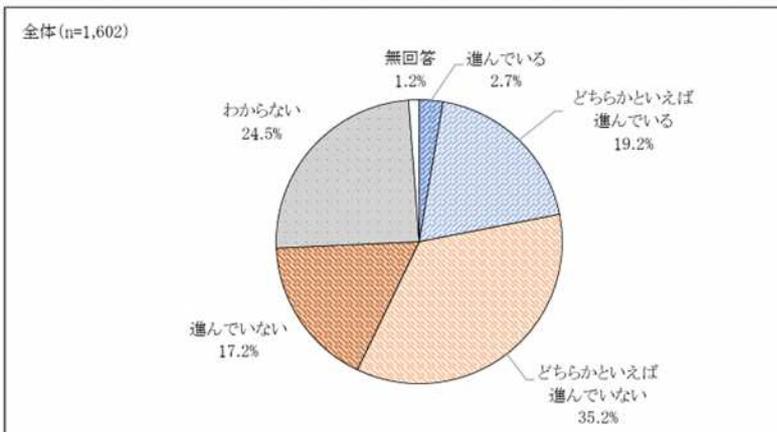
半分以上の人が新潟市に住み続けたいと思っている。「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた約9割(88.3%)の人が新潟市に住み続けたいと思っている。

無回答を除く、残り「どちらかといえば住み続けたくない・住み続けたくない」を合わせた約1割(11%)の人は、その理由として、高い順から、
市外のほうが、
「気候の面で心地よく暮らせる」
「公共交通が便利」
「買い物などの日常生活が便利」
などが挙げられた

2. 新潟市の持続可能なまちづくりについて

(1) 持続可能なまちづくりが進んでいるか

2-1 あなたは、新潟市において、上記のような将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思いますか。(〇は1つだけ)



【全体結果】

持続可能なまちづくりについて、「進んでいる」(2.7%)、「どちらかといえば進んでいる」(19.2%)を合わせた『進んでいる』は21.9%となった。「どちらかといえば進んでいない」は35.2%、「進んでいない」が17.2%となった。また、「わからない」と答えた割合が24.5%となった。

「持続可能なまちづくりが進んでいるか。」の質問に、

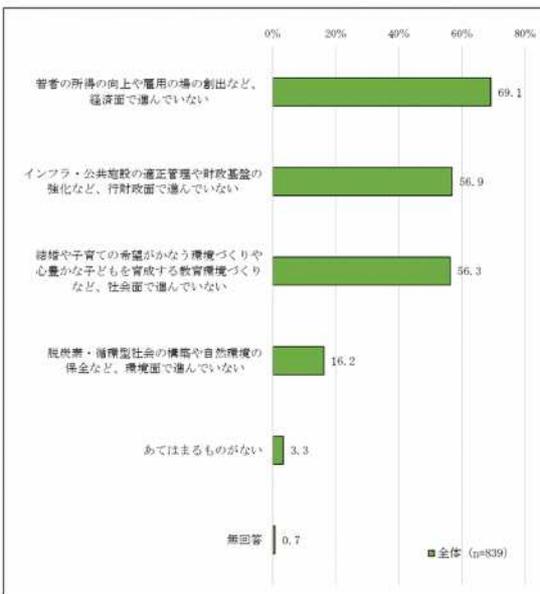
- ・進んでいる 2.7%
- ・どちらかといえば進んでいる 19.2%

「進んでいる・どちらかといえば進んでいる」を合わせると約2割(21.9%)の人が将来世代のことも大切に持続可能なまちづくりが進んでいると思っている。

無回答を除く、「どちらかといえば進んでいない・進んでいない」を合わせた約5割(52.4%)の人が持続可能なまちづくりが進んでいないと思っている。

(2) 持続可能なまちづくりが進んでいないと思う理由

上記2-1で「どちらかといえば進んでいない」または「進んでいない」を選択した方に質問します。
2-2 特にどのような面で進んでいないと考えるか、あなたの考えに近いものを選択してください。（〇はいくつでも）



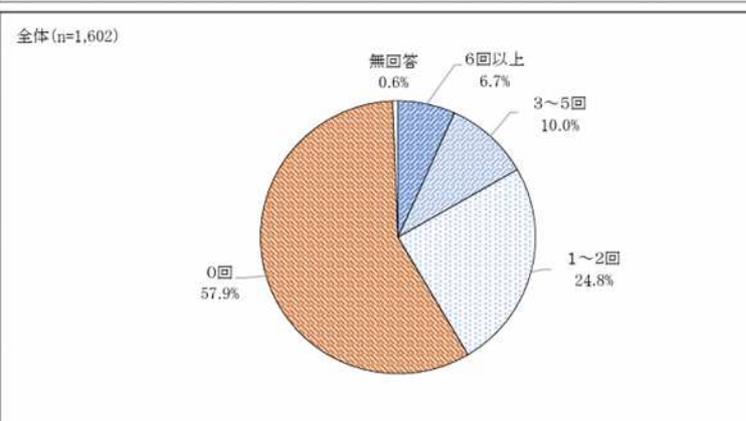
前ページの新潟市において、「持続可能なまちづくりが進んでいないと思う理由」として、高い順から

- 若者の所得の向上や雇用の場の創出など、経済面で進んでいない 69.1%
- インフラ・公共施設の適正管理や財政基盤の強化など、行財政面で進んでいない 56.9%
- 結婚や子育ての希望がかなう環境づくりや心豊かな子どもを育成する教育環境づくりなど、社会面で進んでいない 56.3%

4. 地域の活動について

(1) 地域活動に参加したか

4-1 あなたは、過去1年間に地域活動に何回参加しましたか。仕事やお客としての関わりでなく、活動のスタッフ・従事者として参加した回数をお答えください。（〇は1つだけ）



「地域活動に参加したか」の質問に、「6回以上」から「1~2回」を合わせた「1回以上」は約4割（41.5%）の人が活動のスタッフ・従事者として参加した。

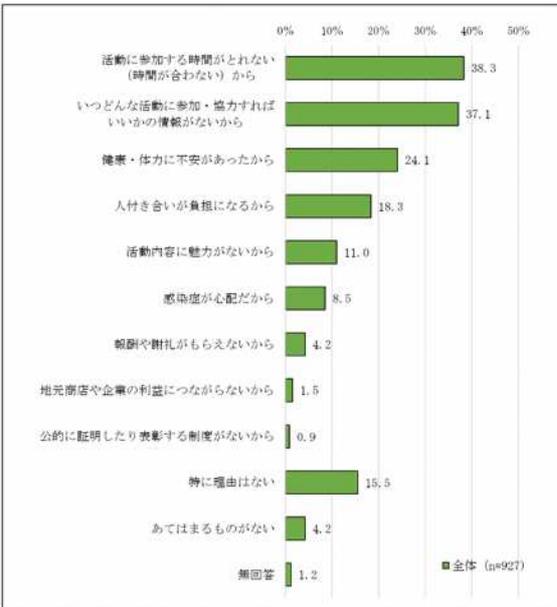
残り無回答を除く
約6割（57.9%）の人は、参加活動のスタッフ・従事者として参加しなかった。

【全体結果】

地域の活動について、「6回以上」が6.7%、「3~5回」が10.0%、「1~2回」が24.8%、「0回」が57.9%となった。「6回以上」「3~5回」「1~2回」を合わせた『1回以上』は41.5%となった。

(2) 地域活動に参加しなかった理由

上記4-1で「0回」を選択した方に質問します。
4-2 地域活動に参加しなかった理由について、あなたの考えに近いものを選択してください。(〇はいくつでも)

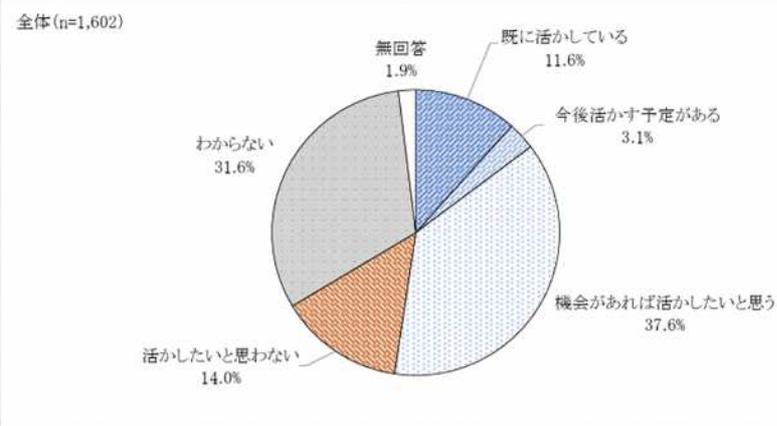


前スライドの「地域活動に参加しなかった理由」として、高い順から

- ・ **活動に参加する時間がとれない(時間が合わない)から** 38.3%
- ・ **いっどんな活動に参加・協力すればいいかの情報がないから** 37.1%
- ・ 健康・体力に不安があったから 24.1%
- ・ 人付き合いが負担になるから 18.3%

(1) 生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしているか

11-1 あなたは、生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしていますか。(〇は1つだけ)



「生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしているか」の質問に、「既に活かしている」と「今後活かす予定がある」を合わせたのは約1割(14.7%)の人が活かしている。または、活かそうとしている。

残り無回答を除く、**約8割(83.2%)の人は、生涯学習活動で身に付けた知識や技能を、地域や学校、ボランティア活動に活かしていないか、わからないと回答があった。**

【全体結果】

生涯学習活動で身に付けた知識や技能について、「既に活かしている」が11.6%、「今後活かす予定がある」が3.1%、「機会があれば活かしたいと思う」が37.6%、「活かしたいと思わない」が14.0%となった。また、「わからない」と答えた割合が31.6%となった。

(2) 地域や学校、ボランティア活動に活かしていない理由

上記11-1で「機会があれば活かしたいと思う」「活かしたいと思わない」「わからない」のいずれかを選択した方に質問します。

11-2 次のうち、あなたの考えに近いものを選択してください。(〇は3つまで)



前スライドの「地域や学校、ボランティア活動に活かしていない理由」として、高い順から

- 活動するための時間がとれない、または健康や体力に不安がある 27.6%
- 活動に活かせる知識や技能が身に付いているかどうか分からない 25.8%
- 気軽に参加できるボランティア活動があれば参加したい 23.5%
- 生涯学習活動をしていない 23.4%
- 一緒に活動する人がいれば活動してみたい 20.4%

新潟市地域福祉計画 (2021 ~ 2026)

みんなで創ろう だれもが人や社会とつながり 認め、支えあい
自分らしくいきいきと暮らせる福祉の都市 「にいがた」



令和3年3月
新潟市

3 アンケート調査結果 (抜粋)

1 アンケート名

新潟市の地域福祉に関するアンケート調査

2 調査概要

項目	内容
調査地域	新潟市全域
調査対象	満20歳以上の男女個人
標本数	4,000人
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	郵送法(調査票の配布・回収とも)による自記式アンケート調査
調査期間	令和元年8月5日~8月20日

3 回収結果

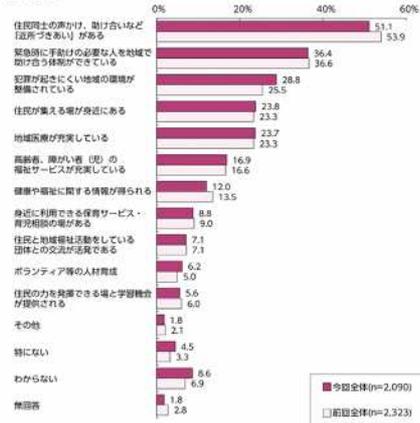
有効回答数(率) 2,090 (52.2%)

コ. より住みやすい地域とするための必要条件
 問 あなたの住む地域を、より住みやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

住みよい地域にするためには、約5割の人が「住民同士の声かけ、助け合いなど「近所づきあい」がある」が必要と思っている

【全体結果】

「住民同士の声かけ、助け合いなど「近所づきあい」がある」の割合が50%強と最も高い。「緊急時に手助けの必要な人を地域で助け合う体制ができていく」の割合が30%台で続く。



【前回調査との比較結果】

前回同様「住民同士の声かけ、助け合いなど「近所づきあい」がある」や「緊急時に手助けの必要な人を地域で助け合う体制ができていく」が上位を占める。

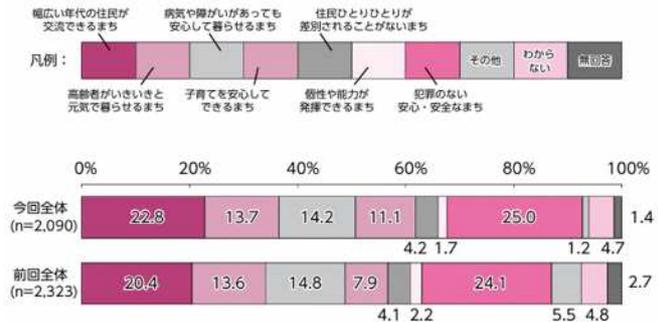
サ. より住みやすい地域とするための必要条件

問 あなたは、住む地域が今後どのような地域になれば住みやすいと思いますか。(〇は1つだけ)

2割強の人が「犯罪のない安心・安全なまち」が住みやすいと思っている

【全体結果】

「犯罪のない安心・安全なまち」の割合が20%強と最も高い。「幅広い年代の住民が交流できるまち」の割合が続く。



【前回調査との比較結果】

回答割合に差はあまり見られない。

新潟市公民館における地域の取り組み

● 地域活動を担う人材の育成

【目的】市民の主体的な地域課題学習を支援するために、地域コミュニティ協議会など地域団体と連携しながら、地域活動を担う人材を育成する。

【R6年度実績】

事業数 127件
 延べ参加数 17,473人

※地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後に生かしたいと回答した割合 92.2%

【主な事業】

地域絆事業・ジュニア防災・学生連携事業・スポーツセミナーなど

● 公民館と地域団体との共同事業

【目的】様々な地域コミュニティ協議会と連携し、世代間交流や地域の絆づくりなど、共同事業を行うことで、地域課題の解決を支援する。

【R6年度実績】

事業数 117件
 延べ参加数 22,873人

※公民館と連携事業を実施する地域コミュニティ協議会数
 コミュニティ協議会 53団体

【主な事業】

コミュニティ防災学習会、臼井の達人、いきいき健康教室、カメラ講座など

【出典】教育ビジョンR6最終評価シートほか

● 地域活動を担う人材の育成 (R6年度事業実績127件)

上位順	公民館事業の取り組み	件数	割合	主な事業名 (公民館名)
1	人づくり、地域づくりを通じた地域コミュニティ活動の活性化への支援	54件	43%	地域絆事業 (豊栄) ・ ご近所だんぎ (石山) ・ 地域活動活性化支援事業 (東) ・ コミュニティーコーディネーター育成講座 (亀田)
2	現代的・社会的課題を探り、問題解決を促す学習機会の提供	26件	20%	山の下中学校・東新潟中学校「ジュニア防災」(中) ・ しろなみ塾 (白根) ・ たいけん日本語教室 (西) ・ 認知症サポーター養成講座 (黒埼) ・ スマホ講座 (西川)
3	青少年の生き抜く力を育む機会の充実	16件	13%	わくわくランド (関屋) ・ こども公民館@横越小 (横越) ・ 絵本ボランティア事業 (小針青山) ・ ミニ門松づくり (岩室)
4	家庭に関する教育力向上の支援	15件	12%	保育者連絡会または交流会 (中央ほか9館) ・ 赤ちゃんお誕生おめでとう (関屋)
5	その他	12件	9%	秋葉区二十歳のつどい (新津) ・ 西蒲区特別支援学校実習受け入れ (巻)
6	高齢者の学習支援や社会参加の促進	4件	3%	キネマ松浜劇場 (北) ・ 青空学級 (潟東) ・ 人生いろいろ講座 (中之口)

● 公民館と地域団体との共同事業 (R6年度事業実績117件)

上位順	公民館事業の取り組み	件数	割合	主な事業名 (公民館名)
1	人づくり、地域づくりを通じた地域コミュニティ活動の活性化への支援	61件	52%	お互いさまネット石山 (石山) ・ 健康寿命延伸学習 (鳥屋野) ・ 大江山地域連携事業 (亀田) ・ 花いっぱい運動 (小須戸) ・ 女性セミナー (月潟) ・ 地域の建て舞プロジェクト (中野小屋)
2	現代的・社会的課題を探り、問題解決を促す学習機会の提供	22件	19%	山の下中学校・東新潟中学校「ジュニア防災」(中) ・ 課題解決講座 (東) ・ 味方穀倉祭 (味方) ・ うちのDEシネマ (西) ・ 黒鳥地区心ふれあう芸能芸術発表会 (黒埼)
3	青少年の生き抜く力を育む機会の充実	15件	13%	お寺でゴーン (東) ・ アキハの宝子ども探検ツアー (新津) ・ 新春書き染め大会 (中之口)
4	家庭に関する教育力向上の支援	3件	3%	赤ちゃんお誕生おめでとう (関屋) ・ 横越ごはん塾 (横越) ・ 地域で見守るこどもの人権 (西)
5	その他	10件	8%	こすど地区公民館報の発行 (小須戸) ・ カモねぎまつり (潟東) ・ 漆山公民館絵画教室 (漆山)
6	高齢者の学習支援や社会参加の促進	6件	5%	今が聞きどき！しろね塾 (白根) ・ 月寿教室 (月潟) ・ いきいき健康教室 (赤塚)

新潟市公民館が考える地域の課題

【地域コミュニティ】

- ・ 高齢者世帯・独居高齢者の増加、孤立や健康問題の懸念
(北地区公民館ほか18館)
- ・ 昼間の人口の減少・空き家増加・地域活力の低下、引きこもり
(巻地区公民館ほか10館)

【世代間交流】

- ・ 少子化や住民同士・世代間・学校とのつながりが減少
(新潟地区公民館ほか18館)
- ・ 学校や学生、地域との交流機会が減少し、地域教育・文化継承が困難
(中地区公民館ほか13館)
- ・ 部活動の地域移行や若者・子ども世代との関わり
(亀田地区公民館ほか6館)

【公民館の課題】

- ・ 職員減、サークル減少による公民館離れ、運営コスト増
(中央公民館ほか4館)
- ・ 地域・学校との連携の仕方、つながり方の工夫
(中央公民館ほか9館)

【出典】 R7区の課題取組シートより（要約）

各区における地域の課題

北区	高齢化・人口減少のため、後継者不足による伝統・文化の継承が困難になっている。コロナ禍以降、地域や学校など多世代の交流の機会が減少している。
東区	就労年齢の高齢化と昼間人口の減少により、地域活動への人材不足や世代間交流の減少が進み、高齢者の知識活用や若者世代との連携・意見交換の機会が求められている。
中央区	高齢者世帯・単身世帯が増加し、空き家の増加も進んでいる。地域社会や学校との交流機会の減少により、高齢者の孤立や健康問題、世代間のつながりの希薄化が深刻化している。
江南区	中学校の部活動地域移行や施設の統合など地域環境が変化する中、学校と連携しこどもの健やかな成長を支える学びと交流の場づくりや高齢者の学びの確保を求められている。
秋葉区	こどもと高齢者の交流減少で世代間のつながりが希薄化しており、学校や地域が連携して人材育成や公共施設を活用し、安心して暮らせる地域づくりを進めることが求められている。
南区	少子高齢化で伝統文化の担い手や住民同士の交流が不足してサークルの活動休止が深刻である。独居高齢者や引きこもりの支援が必要である。職員体制の縮小や中学校との連携が少ない。
西区	地域や学校とのつながりが薄れ、地域活動やボランティアの担い手が不足している。また、定年延長や再雇用により学ぶ機会が減少している。地域団体や大学との連携促進が必要である。
西蒲区	人口減少で地域活動や学校とのつながりが希薄化しており、後進育成やイベント維持が課題となっている。多世代交流や地域の文化継承・活性化を推進することが求められている。

【出典】 R7区の課題取組シート（基幹公民館報告書）より（要約）

地域連携に対する活動協力員の意見

地域のニーズを満たしている

北地区公民館ほか14館

【理由】

地域の学校・大学・団体・ボランティア等と連携し、地域住民の学びや交流、子どもの育成、高齢者の社会参加などに積極的に取り組んでおり、公民館が地域の実情やニーズに即した事業を展開している。特に、出前講座や共催事業、地域イベントなどを通して、地域の活性化や多世代交流に貢献している。

満たしていない、または未回答

中央公民館ほか9館

【理由】

限られた参加者で、後継者不足や人手不足が課題である。一部の学校・地域団体との連携で、地域全体を満たしていない。情報発信不足により、公民館の活動内容や価値が住民に伝わらない。ボランティアや地域住民の参加を増やす工夫が必要で、地域の特徴や住民のニーズに応じた事業や、複数施設との連携が求められる。

【もっと良くなるには】 共通意見

多世代が参加できる活動を展開することで、参加しやすい企画を増やす。公民館は、地域づくりや子どもの居場所づくりに寄与し、地域特性や資源を活かした事業展開や地域団体と協働して、地域住民の参画の機会を創出する。

【出典】 R7活動協力員会議シートより
一部抜粋（R7.4～5月実施）

各区における 地域連携事業の取り組みについて

（資料2）をご覧ください。

審議委員への討議事項

市民の皆さまと共に「活力あふれるまちづくり」、「持続可能なまちづくり」にむけて、互いに連携・協働しながら取り組むことを求められています。このような視点から、公民館の担う役割についてご討議ください。

- 【ボランティア】地域活動に関心を持ってもらい、気軽に参加してもらうには、どのような工夫が必要ですか。
- 【地域連携】みんなで支えあえる地域にするためには、公民館がどのように地域と関わるとよいですか。
- 【生涯学習の還元】学んだ知識や経験を地域活動に活かすには、公民館にはどのような仕組みや場があるとよいですか。